

令和2年度病害虫発生予察情報 注意報第6号

令和2年7月17日
岩手県病害虫防除所

曇雨天が続き、いもち病の発生が認められています。
上位葉での発病が見られているため、早期発見、早期
防除に努めましょう。

- 1 対象作物、病害虫：イネ、いもち病（穂いもち）
- 2 対象地域：県南部
- 3 発生時期：早
- 4 発生量：やや多
- 5 予報の根拠

- (1) 基準圃場（北上市成田、接種）では、7月第2半旬に発病が確認され、第3半旬にかけて病斑数が急増した（図1）。
- (2) 7月14～16日の巡回調査で、県中南部の複数カ所で葉いもちの発生が確認されている（図2）。
- (3) 特に、葉色の濃い圃場で発病が確認され、一部では、上位葉に急性型病斑が見られたほか、周辺圃場での発病も確認されている（図3）。
- (4) BLASTAM（アメダスデータを用いた葉いもち感染予測システム）では、6月12日から全県的に感染好適条件が複数回出現しており、感染が繰り返されていると考えられる（表1）。
- (5) 7月16日発表の東北地方1か月予報によると、降水量はほぼ平年並、日照時間は少ないと予想されており、本病の発生に好適な条件が継続し、穂いもちの重要な伝染源となる上位葉でのまん延が懸念される。

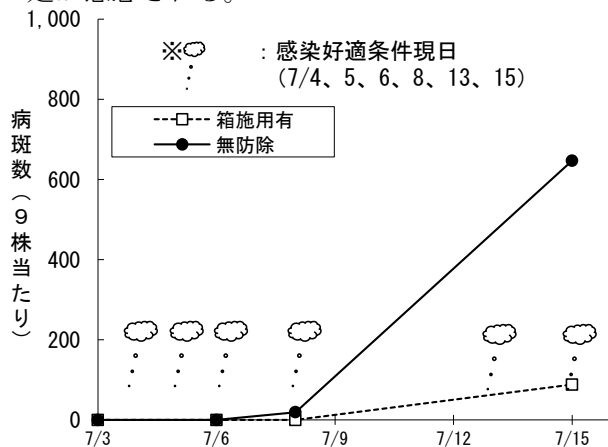


図1 基準圃場（北上市成田）における葉いもちの発生推移（接種：6/12、24、7/1）

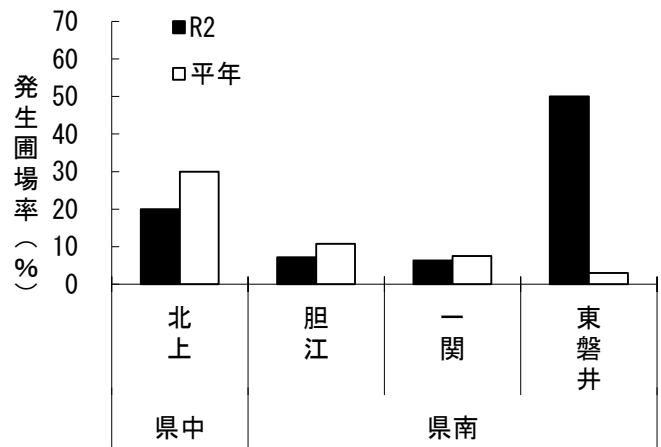


図2 葉いもち発生状況（7月16日現在）
1) 100株調査で発病葉が認められた圃場率
2) 調査地域：一関・東磐井・胆江・北上地域



図3 現地で確認された急性型病斑（左）と慢性型病斑（右）

